

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ザンビア共和国コッパーベルト州マサイティ郡およびムポングウェ郡にて、MDGs5（妊産婦の健康の改善）が達成される。
(2) 事業内容	2014 年（平成 26 年）12 月 3 日～2015 年（平成 27 年）6 月 2 日までに実施された事業内容と経過は以下の通りとなる。 イ) プロジェクト運営体制の整備 ① プロジェクト運営委員会 2014 年 12 月 8 日～12 月 12 日（マサイティ郡）、2014 年 12 月 16 日～12 月 19 日（ムポングウェ郡）にわたりプロジェクト対象地区（10 地区）の運営委員会へ向けオリエンテーションを実施した。選出された各地区 10 名の運営委員（計 100 名）に対し、本プロジェクトの概要や運営委員の役割、連携体制等を周知し、地域レベルでの協力体制への理解を求めた。運営委員 10 名は、コミュニティリーダー、宗教指導者、ヘルススタッフ、教師などから構成されている。今後、各地区の運営委員による母子保健推進員（Safe Motherhood Action Group: SMAG）の活動のモニタリングやコミュニティ内での連携体制強化が期待される。（参照：添付資料②） ② プロジェクトスタートアップ会議 2015 年 1 月 27 日、28 日の 2 日間にわたりコッパーベルト州ンドラ市内ムクバホテルにて、プロジェクトスタートアップ会議を開催した。コッパーベルト州保健局、マサイティ郡保健局、ムポングウェ郡保健局、国際家族計画連盟アフリカ地域事務所、ザンビア家族計画協会 (PPAZ)、ジョイセフなどから総勢 43 名が参加した。2011 年～2013 年にジョイセフが実施したマサイティ郡フィワレ地区での妊産婦支援プロジェクトの経験を共有し、次いで本プロジェクトの目的、活動内容、期待される効果や各関係者間による役割を確認した。 さらに、ワンストップサービスサイトとして建設予定であるマタニティハウスの建築へ向けて、遠藤幹子専門家（一級建築士）によるワークショップを実施した。ワークショップではワンストップサービスの有効性や利用者に優しい環境づくり、またプロジェクトの持続性についても他国の経験事例などを紹介しながら討議が行われ、プロジェクト関係者間での理解を深めることが出来た。その他に、プロジェクト関係三者の覚え書 (MoU) の署名式、IEC 教材である妊娠シミュレーターやマギーエプロンの贈呈を行った。（参照：添付資料③） ロ) 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育 ① 母子保健推進員 (SMAG) の養成研修 2 月 5 日～3 月 6 日（計 30 日）にわたり、ムポングウェ郡で 1 コース 10 日間の母子保健推進員 (SMAG) の研修を 3 グループに分けて実施した。5 地区から各 20 名の SMAG 候補生が選出され、新しく

100名のSMAGが育成された。各研修内容には、母子保健の基礎となる妊娠のしくみ、施設分娩の重要性、妊産婦のケアに関する講義、コミュニティで活用されるさまざまな情報・教育ツールの紹介、また活動のレポート及びモニタリング方法などが含まれた。さらに、研修の最後には各地区の保健スタッフも参加し、保健施設とSMAGとの連携協力のためのネットワーク作り、研修や活動のモニタリングへの理解を深めた。(参照：添付資料④)

② 効果的なIEC/BCC教材作成

4月4日～7日にかけ各郡保健局とPPAZによりIEC/BCC教材の翻訳と教材改訂作業を実施した。翻訳では、マギーエプロン、妊娠シミュレーターに付随する英語の説明書を現地語であるベンバ語に訳した。また、既存の教材である妊娠出産における危険な兆候と分娩計画の教材を統合させた新たな教材作成についても議論された。翻訳されたマギーエプロンと妊娠シミュレーターの説明書は、6月末から予定される「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修(IEC/BCC研修)」においてSMAG及び保健スタッフに配付する予定である。危険な兆候と分娩計画の統合バージョンについては、引き続き浅村里紗IEC/BCC専門家の派遣時にフォローアップを行い、最終的な内容確認を行う。(参照：添付資料⑤)

③ 若者ピア・エデュケーター(PE)の養成研修

テルモ財団による助成金を受け、4月16日～25日までムタバ地区の若者ピア・エデュケーター20名(18歳～25歳)を対象に10日間の研修を実施。身体や性の知識、家族やコミュニケーション、ライフスキルに関するグループワークを多く取り入れた研修を行い、ムタバ地区において思春期・若者への啓発教育活動を推進する体制が整った。

ハ) 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上

① 母子保健棟の建設・改築および必要な医療器材の供与

2月上旬に建設業者との契約を終え、マサイティ郡ムタバ地区の母子保健棟の建設を開始した。3月中旬には基礎作りが終了し、外壁作りへと進み、建築の完成は、6月末を予定している。

月2回の定期モニタリングをマサイティ郡保健局とともに実施し、作業工程や進捗状況の確認、建設業者、地区運営委員へのヒアリングを実施中である。

医療器材に関しては、予定した購入品のほとんどが調達され残り数品の購入を手配している段階である。6月末予定の母子保健棟建設完了後、医療器材の搬送、設置を予定している。

② マタニティハウス・ユースセンター・助産師の住居の建設並びに参加型ワークショップの開催

母子保健棟と同様に2月上旬に建設業者との契約を終え、建築を開始した。月2回の定期モニタリングも並行して実施し、6月末に完成予定。

マタニティハウスの建設には、株式会社商船三井から寄贈のコンテナを建物の一部として再利用するため、3月末にムタバ地区へ

	の搬送が行われた。 また、本事業で予定していた水タンクは、株式会社グライド・エンタープライズの支援で建設された。また、無電化地域であるため、助産師住居のソーラーパネル設置をプロジェクト費で行い、マタニティハウス及び母子保健棟のソーラーパネルは、支援企業による協力で設置予定である。 8月末に予定しているペインティングワークショップに向け、1月末に現地ムタバ地区の住民、助産師からのヒアリングを実施し、安全な妊娠・出産へのメッセージを募った。ユースセンターについては、若者ピア・エドューケーターからアイデアを募った。今後も、住民参加のもとワークショップを開催する予定。
(3) 達成された効果	本プロジェクトが1年次に達成することが期待される目標は下記の通りとなる。 年次目標 1) プロジェクトの運営体制が整う 2) 家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く 3) プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質が向上する 4) 継続ケアのための保健施設と地域の間の連携体制が整う 1) プロジェクトの運営体制が整う 地区レベルでの運営委員会が2014年12月に10地区すべての対象地区において実施され、各地区からそれぞれ10名の運営委員の選出が完了した。年次目標達成へ向けた実施体制の目標は達成された。 2) 家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く ムボングウェ郡において100名のSMAGの育成、ワンストップサービスサイト（ムタバ地区）の若者PE20名の育成を完了し、産前、出産、産後ケア、施設分娩に関する妊産婦・新生児保健、望まない妊娠の予防や性感染症の知識や情報についてコミュニティでの啓発教育活動の準備が整った。 効果的なIEC/BCC教材作成については、妊娠シミュレーター及びマギーエプロンの現地語翻訳作業が4月に実施され、6月の保健医療従事者及びSMAGに対して行われる「クライアントフレンドリーサービス研修」や「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修」時での配付の準備が進んでいる。 3) プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健のサービスの質が向上する ムタバ地区における母子保健棟、マタニティハウス、助産師住居、ユースセンター4棟の建設作業は予定通り進捗し、9月3日に予定されるペインティングワークショップ・開所式に向けて準備を進めている。医療機材・医薬品の供与に関して、約9割の購入が終了し、残り数品で完了予定。

	マタニティハウス設計に関するワークショップは、プロジェクトスタートアップ会議で実施し、プロジェクト関係者に対しても理解を深めることができた。 4) は、下半期の活動に関連した目標のため、完了報告書で報告する。 成果指標のモニタリングに関して、上半期に SMAG 及び PE の育成が終了したため、SMAG などの月例活動報告書で受益した妊産婦・新生児、若者の数を確認し、完了報告書で報告する。そのほか保健医療従事者の知識に関しては、研修終了時に調査する予定である。また、プロジェクト目的に関する指標である保健施設での出産数、産後ケアを受ける産婦数、家族計画のサービスを受ける数も完了報告書で報告する。
(4) 今後の見通し	上半期の主な活動はほぼ計画通りに進んでおり、下半期に予定される事業内容が予定通り進捗すれば、1 年次に期待される成果は見込まれると考える。 ワンストップサービスの建築施設に関しては、今後の施設の運営や管理について、プロジェクト関係者間で再度協議を行い、施設の有効活用と運営管理について確認を行う。 また、SMAG や若者 PE の活動をより明確に提示できるよう定期的な活動モニタリングツールの開発が必要とされる。これには、プロジェクト地区運営委員会や保健医療従事者の協力体制が不可欠となるため、今後予定されるワークショップや研修時に、さらに強調して理解を求める必要がある。また、各地区の保健に関する住民の行動の変化などの好事例（グットプラクティス）、あるいは直面する課題について、地区プロジェクト運営委員会の月例会議で共有するシステムをつくり、記録していく必要があり、5 月末に実施されるプロジェクト地区運営委員会で協議し体制を整える予定である。